

京都府地震被害想定調査委員会

地震動予測部会(活断層G、地震動予測G)

平成18年7月25日(火)13:30~  
平安会館

	検討課題	内 容
	P波探査結果を踏 まえた断層の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 黄檗断層</li> <li>・ 井手断層、奈良盆地東縁断層帯(南方延長について)</li> <li>・ 京阪奈丘陵断層帯(僧坊撓曲、秋篠撓曲の北方延長について)</li> <li>・ 男山東側(金ヶ原断層との連続性及び南方延長について)</li> <li>・ 交野断層(大大特調査結果の評価について)</li> </ul>
	震度予測を行う震 源断層の設定	<p>府域にかかる各断層について、簡易な方法で震度予測を行い、その中から詳細予測候補を選定</p> <p>&lt;震度予測候補及び各端点設定の考え方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地震調査研究推進本部の評価</li> <li>・ 京都市地震被害想定調査での断層設定</li> <li>・ P波探査結果を踏まえた断層の評価</li> <li>・ 「見落とし」がないようにいわゆる「黒線」も対象</li> </ul>
	過去発生した地震 被害の検証	<p>以下地震における各地域ごとの被害率を出し、作成した地盤モデルを検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1927年北丹後地震</li> <li>・ 1925年北但馬地震</li> </ul>
	地下地盤モデルの 作成方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 堆積盆地の広さや地下岩盤の深さに応じ4区分に分けてモデル化</li> <li>・ なお、山地部は1区分</li> </ul>
	地下地盤モデルの 作成	<p>データの集積度に応じ作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 府南部全域作成</li> <li>・ 府北部のうち亀岡、園部、福知山、綾部、舞鶴、宮津、与謝野について作成</li> <li>・ 峰山・大宮や久美浜、夜久野、上林川、京丹波は、データ不足のため最も簡易なモデルを作成(詳細な地下構造モデルは作成不可)</li> </ul> <p>峰山・大宮や久美浜、夜久野、上林川、京丹波について追加調査の検討</p>
	地下地盤モデルの 検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 府南部のモデルについて、実地震の揺れとの比較を行い、妥当性を評価(増幅特性の検証)</li> <li>・ 府北部のモデルの検証は後日(増幅特性・過去地震の検証)</li> </ul>
	地震動予測手法の 検討	<p>ハイブリッド 波形合成法又は統計的グリーン関数法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 府南部のモデルであればハイブリッド 波形合成法も可能だが、さらに高いレベルでのモデルの妥当性検証が必要</li> <li>(小地震の波形との整合を精密に図る必要がある)</li> <li>・ 木津川河谷程度の基盤岩深度であれば両手法の違いは大きくはない。</li> </ul>